

## 「心を伝える」

(第三十六回)

郵便ポストがコンビニに設置されている。利便性が追求された日本のライフスタイル。

確かにメールが早くて便利だが、やっぱり、自筆で気持ち綴ったハガキや手紙が人の心を打つ。

手紙を運ぶ飛脚制度に代わって、郵便制度が始まったのが四月二十日。

同日が「郵政記念日」で、郵便週間と切手趣味週間へと続く。この週には「世界本の日」や「こどもの読書の日」も重なってる。

さて、学問の神様といえは菅原道真。五歳で和歌を詠み十歳で漢詩を書き、幼い頃からその天才ぶりが知られた。三十三歳で文書博士になり、五十五歳で右大臣にまで登り詰めたが、陰謀の手紙により太宰府に流されて不

# 健康のススメ

## 板東 浩

遇のうちに没してしまふ。その後首謀者たちに落雷が当たるなど、道真の怨霊伝説が有名だ。没後二十年して再び右大臣に復帰できたのが、ちょうどこの日であった。

道真が九州の地から京を想う和歌がある。

東風吹かば

思っておこせよ

梅の花

主無しとて

春な忘れそ

この梅の木は道真が亡くなると主を慕って九州まで飛んできて、墓の側に移ったという。

全国の天神様(天満宮)で道真公は静かに休まれておられる。

しかし、日本語が軽んじられ危機的状況とされる今、学者である道真はおちおちと眠ってはおられない。時空を越えてすぐにでも飛んできたいと、やきもきしているのではないだろうか。

(医学博士・内科医師)